

田園空間博物館 南遠州とうもんの里

子どもたちを呼び込むための環境づくり

メンバー

(地域経営) 3年 岩田啓佑
(地域共生) 3年 今西志帆、西村愛未
(アート&マネジメント) 3年 石上すみれ
(スポーツプロモーション) 3年 市川菜々

指導教員：川崎和也、池田恵子、彭宇潔

フィールドワーク実施協力者

NPO法人とうもんの会
蓮舟寺のみなさま

地域概要

「田園空間博物館南遠州とうもんの里総合案内所」(以下とうもんの里)は、掛川市の南西部にある施設である。掛川市・袋井市・磐田市の南部に広がる田園地帯を「とうもん」と呼ぶ。「とうもん」という言葉は、「稲面(とうも)」または、「田面(たおも)」がその由来とされている。美しい田園風景や豊かな自然、温かい地域の人々、伝統ある農村文化がとうもんの里の魅力である。

とうもんの里を運営するのが、2006年に地域住民らが中心となり設立した「NPO法人とうもんの会」である。とうもんの会は、とうもんの里を拠点に、農業体験、食加工体験、地域文化のPRやイベント企画、地域の農産物・加工品のPR販売などの活動を行っている。こうした活動を通して、地域の農業や農村の魅力を伝え、とうもんの里を訪れる人々のふれあいを創り、農業の保全や地域活性化につなげることを目的としている。



とうもんの里の風景

これまでの活動

田園風景の保全と農村の伝統文化の継承などを目的に活動するとうもんの会では“農業を知らない子どもたち”を活動のターゲットのひとつにしており、次世代を担う子どもたちをいかに巻き込むかが大きな活動のひとつである。こうした課題を背景に、とうもんの里フィールドワークでは、「子どもたちを呼び込むための環境づくり」というテーマを掲げて、フィールドワークに取り組んでおり、地域の歴史、自然、伝統文化、農業、人々の暮らしといった、遠い昔から受け継いできたふるさとを“農業を知らない子どもたち”に繋げていくために、とうもんの里を通して地域の魅力発信を行ってきた。



キッズフェス

とうもんの里に子供たちを呼び込むためにキッズフェスを行っている。自然豊かなとうもんの里で子供たちが楽しく活動し思い出に残るようなイベントを目指している。

夕食作り

とうもんの里でお世話になっている名倉光子さんから料理の豆知識を教わりながら、全員で協力し、とうもんの里で売られている地元の食材を使い夕食作り！



報告会

毎年フィールドワークの最終回に地域の方々を対象として行う報告会。地域の方々にとうもんの里フィールドワークの活動と1年間協力の感謝を伝える。



2024年度の活動について

2024年度も夏と秋の2回行った。3年生5人という少人数でのイベント運営において、役割分担や事前準備を徹底し、他団体との連携やとうもんの会のサポートを活用することで無事に運営を行うことが出来ました。

【夏のキッズフェス】

夏休み中の小学生・未就園児を対象としたイベントで、

- ①農村の伝統文化を子どもたちに伝えること
- ②秋のキッズフェスの宣伝をする

この2点を目的として企画をした。

午前中は宿題に取り組み、昼食はみんなで夏野菜カレーを食べた。午後からは、水遊びを行い、農村ならではの時間を楽しめた。

子どもたちからも楽しかったという声や、保護者の方から参加した子どもたちがとても楽しんでいて、秋のキッズフェスも参加したいという声をいただき、目的を達成できたと言える。一方で、インスタグラムをもっと有効的に活用できたのではないかと集客に関する反省と、参加者の年齢層と企画があってなかったという反省があげられた。



水遊びの様子



井戸の水くみに挑戦



昼食の様子

【秋のキッズフェス】

子どもたちに農村の魅力を伝えたいという思いから、子どもが全身で自然を感じながら遊び、思い出に残るようなイベントを目指した。

今年度は、昨年度以上にとうもんの里の自然空間を活かし、年齢に関係なく全員が参加できる宝探しやしっぽとりなどの遊びを取り入れた。また、これまで屋内で実施していた遊びのブースを屋外に移動させることで、より自然を感じられるようになった。昨年度に引き続き常葉大学こども健康学科のボランティアサークル「SUN&leaf」と連携した。事前準備の段階から連携をとったことで、当日のスムーズな進行や楽しい雰囲気づくりにつなげることができた。さらに、子どもに関する専門知識や豊富な経験を活かして、子どもの興味を引き出したり、音楽やダンスなど幅広い分野の遊びを提供したりすることもできた。

イベント後に行ったアンケートからは「充実した一日になった」「次回があれば参加したい」などの意見をいただいた。夏のキッズフェスなどから継続してイベントに参加して下さった親子の姿も見られた。フィールドワークの活動として地域に残すことができたのではないかと感じている。

フィールドワークとしてのキッズフェスは今年度で終了するが、他団体と連携を測ってきたことで、活動の引き継ぎという新たな可能性も見つけることができた。



笑小屋で遊ぶ様子



外のブース



音楽ブース

これまで取り組んできたフィールドワークを振り返って

【石上すみれ】

とうもんの里で活動したことは、自然と文化、食の密接なつながりを学ぶ機会となりました。子どもたちがとうもんの自然の中で自由に走り、笑小屋によじのぼる姿が印象深いです。私たちの活動が子どもたちの記憶に少しでも残っていると嬉しいです。

【市川菜々】

地域の特徴を活かしたイベントを作り上げる工夫や、目的をチーム全員で共有する重要性、さらに外部への効果的な発信方法について学びました。最終的に全員が責任感を持ち、楽しく取り組めることができ、人としても成長することが出来ました。

【今西志帆】

地域の方々の温かさや思いに触れ、自分も貢献したいと学ぶ意欲が湧いた活動でした。とうもんの自然に癒されながら、企画の工夫や配慮、グループワークを通じて多くを学び、大きく成長できました。

【岩田啓佑】

イベントの企画を通じて、地域の方や他大学の学生など、他者を巻き込む大変さを実感した。それと同時に、「農村の魅力を子ども達に伝える」という一つの目的のもと、他者との協働によって事を成し遂げたこと、地域に活力生むきっかけづくりができたことに喜びを感じた。

【西村愛未】

私は、とうもんの里でイベント企画のポイントについて学ぶことができました。名倉さんから5W2Hについて教わり、企画を行う「目的」を指す「Why」を考えることがなによりも重要であることを理解しました。この学びを卒業研究でも活かしたいと思います。